

重点取組分野	令和 7 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
授業改善	①「できた・わかった」という子どもの声を大切にICTを効果的に活用し、学習の楽しさを実感できる授業展開を図る。②重点研究テーマを『主体的に取り組む力』を育む授業～児童が学びをつくり出す、児童の言葉から始まる授業づくり～』にし、算数科を中心に、児童が学びをつくり出せるよう、児童の言葉を大切に授業づくりをしていく。	①ICTを効果的に活用することで、児童が楽しさを感じられる授業展開を考えることができた。 ②重点研の算数を中心に、「知りたい」「学びたい」というおもいをもって学習に取り組んでいる児童がいる。一方で、「知りたい」「学びたい」というおもいに繋がりがきていない児童が一定数いるため、より学びをつくり出しているという実感をもてるように改善していく。	B
道徳人権教育	①相手の気持ちや多様な考えを受け止め、自分の考えを広げていけるようにICT機器を適宜利用しながら、道徳教育の充実を図る。②いのちの学習を通して自己を見つめる力を伸ばし、命の尊さについて考えるようにする。③年間を通して行うペア活動、たてわり活動で他者と関わる良さを味わえるようにする。④互いの思いを伝え合いながら、個を認めるような	①③④日々の生活やたてわり活動の中で、友達の良い所を見つたり、いろいろな考えを受け止めようとしたりすることがおおむねできている。また、授業においては、ICT機器を利用することで、より具体的場面を想像し、考え、自分の内面を表現しようとするが増えた。 ②学年に応じた学習の時間(いのちの学習)を計画的に行うことが、自尊感情を高めることにつながってきている。	B
健康安全 体力向上教育	①年間を通して、栄養教諭や養護教諭などと連携し、食育や保健の授業、いのちの教育などを通して、自分自身の心と体の健康を心がけようとする態度を養う。②生活意識調査や新体力テストの結果を基に一人ひとりが自己の成果や課題を見つめ、学校全体として取り組むべき課題を分析する。それらを用いて、体育の授業や体力アップタイムを通して児童が体を動かす喜びや楽しさを味わいながら、意識を高めている。	①栄養教諭と協力した授業により、食への興味関心を高めたり、栄養バランスに気を付けたりすることができた。養護教諭と協力して保健や命の大切さを伝えることができた。②運動能力が市の平均より劣ることや、外に出て遊ぶ時間の減少といった実態に合わせ、リズムジャンプや短縄を楽しく行うことができた。全ての活動を持続可能なものにするのでできなかったので、活動時期をふまえて再考していきたい。	B
自分づくり教育 (キャリア教育)	①ペア学年やたてわり活動を通して異学年交流を行うことで、人とのかかわりを広げ、つながりを感じ、その中で自分のよさを発揮できるようにする。②「ぐるぐる」や「自分づくりパスポート」を通して、自分の成長を感じながら、自分のよさや課題を確認することでなりたい自分をイメージし、めあてを達成しようとする態度を育成する。	①ペア活動やたてわり活動で、自分たちで活動を考えて、人とかかわりを広げ、それぞれのよさを発揮することができた。つながりを感じることができるよう活動の工夫をしていけるようになる。 ②「ぐるぐる」や「自分づくりパスポート」を通して、自分の成長を感じながら、自分のよさや課題を確認することはできた。なりたい自分をイメージし、めあてを達成することができるよう、ぐるぐるの活用方法を改善し、周知していく。	B
いじめへの対応	①職員研修や児童アンケートをもとに、些細な変化を見逃さない体制をつくる。②毎日の健康観察を通して、心身の状態を把握し、児童に寄り添いながらいじめ等の早期発見に努める。	①毎月の職員研修や児童アンケートをもとに、子どもの実態把握をし、共有することができた。②毎日の健康観察は習慣化しつつある。よりよい活用方法を検討していく必要がある。	B
人材育成・ 組織運営(働き方)	①メンターチームを組織し、計画的な研修計画を立て、月1回の活動を継続して行う。②全教職員が5つの部会の1つに所属し、全体を見通して各自の立場から学校運営していく場を設定する。③ICTの効果的な活用を積極的に行い、事務の効率化や情報の共有を図り、教職員が子どもと向き合う時間の確保を目指した組織的な働き方改革につなげる。	①メンター研では、自主的、計画的に授業研究会運営や指導案検討を行った。②5部会での各々の立場から担当する業務に対して学校運営参画意識を高めた。③ICTの効果的な活用を積極的に進めた。事務の効率化、情報の共有化を進め、子どもと向き合う時間の確保を目指した。	B
児童指導 特別支援教育	①子供の思いに寄り添いながら誰一人取り残すことなく学びに向かうためのユニバーサルデザインを全職員で理解し推進する。②「東中田スタンダード」が現在の社会情勢に沿うものであるか検討し、児童の意見を取り入れながらわかりやすい表現にしていく。③職員会議等において児童理解に努め、児童の思いに寄り添った具体的な支援・指導を推進する。	①教室内のユニバーサルデザインは継続して行っているが、みんなが安心して過ごすことができる環境づくりは継続して行っていきたい。②東中田小スタンダードは、年4回の振り返りに取り組むことで 共通理解を図ることができるようになってきた。③毎月の職員研修での児童の実態把握や情報共有をもとに、より具体的な支援策を考えることができるようになってきた。	B
地域連携	①生活科や総合的な学習の時間を中心に、学校・地域コーディネーターと連携して、子どもの思いを大切にしながら、地域のひと・もの・こととつながることで、自分の生き方を考えていくための力をのばすことができるようにする。②繰り返し地域と関わることを通して、地域に対する親しみや愛着を深め、まちのためにできることを考え、取り組もうとする心を育てる。	①子どもの思いを大切にして、地域コーディネーターと連携し、地域とのつながりを広げたり、深めたりすることができた。 ②地域と関わることを通して、まちのためにできることを考え、取り組めた。地域や保護者に活動を発信していくようにする。	B
a14	a24		
a15	a25		
ブロック内 評価後の 気付き	第一回小中ブロック研修会では、中田中学校の授業参観の後、情報教育、児童支援・生徒指導、学校行事の各分科に分かれそれぞれの立場から現状や課題について話し合った。防災安全の観点から、「引き取り訓練」については三校で話し合いを定め、時期の直直しを図った。第二回小中ブロック研修会では、中田小学校の授業参観の後、人権推進協議会を行った。講演会では、横浜市教育委員会でスクールロイヤーとしてご活躍の中川 尚先生を講師にお迎えし「いじめから子どもの人権を守る」というテーマでご講演いただいた。講演後には参加した教員から多くの質問が寄せられ、活発な意見交換が行われた。また、月1回開催しているブロック専任会では、定期的な情報交換を通して、児童生徒指導に有効な情報を共有することができた。部活動交流会や個別支援学級の交流会では、児童生徒が楽しそうに活動しており、小学生にとっては中学校の雰囲気を知る機会となり、中学生にとっては上級生としての自覚を高める良い交流の場となった。		
学校関係者 評価	子どもの話をよく聞き、受け止める教員の姿が良く、授業を受けている子どもたちがいきいきとしている。ICTの活用と合わせて、鉛筆の持ち方などアナログの良さも大切にしていってほしい。そのバランスが年々良くなっていると感じる。人権教室で学んだことを掲示している様子から、「友だちの気持ちを知ろう」としていることが分かり、いじめ防止に繋がっていると感じた。挨拶もよくする姿がある。地域の行事が減少傾向にある中、地域行事に積極的に参加することで、自分たちのまちをふるさとと感じていってほしい。地域の人と子どもたちが話し合える場があるといい。		

中期取組 目標 振り返り	子どもが自ら主体的に取り組む、安心して生活できる学校づくりを目指し、日々の授業や学校行事等の開催方法の工夫に取り組んできた。子どものおもいを大切にし、自ら学びをつくり出しているという実感をもてるような授業展開を目指し今後も取り組んでいく。ICT機器を効果的な場面で有効に使用することを意識し、主体的に取り組む姿につながった。学校運営協議会や地域授業参観において、教育活動について参観、説明する機会をもった。人権教室での学びの掲示や、ICT機器に偏りすぎない教育活動の様子など、評価していただいた。引き続き地域の方々と共に教育活動の充実を図っていく。
--------------------	--

重点取組分野	令和 8 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
授業改善	①児童がICTを効果的に活用しながら学習を楽しみ、主体的に取り組めるようにする。 ②重点研究テーマを『主体的に取り組む力』を育む授業～児童の言葉から始まり、学びと生活をつないでいく授業づくり』にし、算数科を中心に、児童の学びと生活が結びつくような授業づくりをしていく。		
道徳人権教育	①相手の気持ちや多様な考えを受け止め、自分の考えを広げていけるようにICT機器を適宜利用しながら、道徳教育の充実を図る。②いのちの学習を系統的に行うことを通して、自己を見つめる力を伸ばし、自他の命の尊さについて考えるようにする。③日々の生活や年間を通して行うペア活動、たてわり活動で他者ととかかわる良さを味わえるようにする。④互いの思いを受け止め伝え合いながら、個を認めるような環境づくりや児童支援を行う。		
健康安全 体力向上教育	①年間を通して、栄養教諭や養護教諭などと連携し、食育や保健の授業、いのちの教育などを充実させる。自分自身の心と体の健康を継続的に心がけようとする態度を養う。②生活意識調査や新体力テストの結果を基に一人ひとりが自己の成果や課題を見つめ、学校全体として取り組むべき課題を分析する。それらを用いて、体育の授業や体力アップタイムを通して児童が体を動かす喜びや楽しさを味わうことができるようにする。		
自分づくり教育 (キャリア教育)	①ペア学年やたてわり活動を通して異学年交流を行うことで、人とかかわりを広げ、つながりを感じ、その中で自分のよさを発揮できるようにする。②「ぐるぐる」や「自分づくりパスポート」を通して、なりたい自分を明確にイメージし、自分の成長を感じながら、自分のよさや課題を確認することで着実にめあてを達成しようとする態度を育成する。		
いじめへの対応	①職員研修や児童アンケートをもとに、些細な変化を見逃さない。個人面談を年3回行い、家庭での様子を保護者と共有した情報をもとに、いじめの未然防止の体制をつくる。②毎日の健康観察を通して、心身の状態を把握し、児童に寄り添いながらいじめ等の早期発見に努める。		
人材育成・ 組織運営(働き方)	①メンターチームを組織し、授業づくりや学級づくりについて計画的な研修計画を立て、月1回の活動を継続して行う。②全教職員が5つの部会の1つに所属し、学校全体を見通した学校運営に積極的に参画していく場を設定する。③ICTを効果的に活用し、事務処理の効率化や情報の共有化を積極的に図り、教職員が子どもと向き合う時間の確保を目指した組織的な働き方改革につなげる。		
児童指導 特別支援教育	①子どもの思いに寄り添いながら誰一人取り残すことなく学びに向かうためのユニバーサルデザインを全職員で取り組んでいく。②「東中田スタンダード」が現在の社会情勢に沿うものであるか検討し、児童の意見を取り入れながらわかりやすい表現にしていく。③全職員で児童理解に努め、児童の思いに寄り添った具体的な支援・指導を推進する。		
地域連携	①生活科や総合的な学習の時間を中心に、学校・地域コーディネーターと連携して、子どもの思いを大切にしながら、地域のひと・もの・こととつながることができるようにする。②繰り返し地域と関わることを通して、地域に対する親しみや愛着を深め、まちのためにできることを考え、取り組もうとする心を育てる。		
a14	b9		
a15	b10		
ブロック内 評価後の 気付き			
学校関係者 評価			

中期取組 目標 振り返り	
--------------------	--

重点取組分野	令和 9 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
授業改善	c1		
道徳人権教育	c2		
健康安全 体力向上教育	c3		
自分づくり教育 (キャリア教育)	c4		
いじめへの対応	c5		
人材育成・ 組織運営(働き方)	c6		
児童指導 特別支援教育	c7		
地域連携	c8		
a14	c9		
a15	c10		
ブロック内 評価後の 気付き			
学校関係者 評価			

中期取組 目標 振り返り	
--------------------	--